
福島県林業研究センターだより


あさかの森から

No.38 2010年6月

福島県林業研究センター
Fukushima Prefectural Forestry Research Centre

メニュー

- ◆巻頭言
林業っておもしろ〜!
- ◆研究員から
研究紹介(平成22年度研究課題)
【森林環境部】・新規課題の概要
・継続課題
【林産資源部】・新規課題の概要
・継続課題
- ◆トピックス
木材加工棟・試験棟をご紹介します
- ◆センターからのお知らせ
定期異動について



巻頭言

林業っておもしろ〜!

今回は、少し前に読んだ本を紹介します。もう既に読んでいる方もいるかと思いますが、ご勘弁を。

「神去なあなあ日常」と言う本で、作者は直木賞作家の神田しをんさんです。この本の帯に「林業っておもしろ〜!」と書かれていましたので、購入してみました。主人公は、大学に行く気はなく、きちんと就職する気もなく、フリーターでいいやと高校卒業式までだらだらと過ごしていたら、担任が勝手に「緑の雇用制度」に応募し、三重県中西部、奈良県の県境の神去村に放り込まれ、林業の見習いをはじめた一年間の話です。

作者は、三重県に林業を営んだ父方の祖父の家があり、よく遊びに行って、100年後に売れる木を育てる林業はどんな仕事か気になっていたそうです。謝辞には、協力した林野庁、三重県環境森林部、尾鷲市水産農林課、森林組合、木材市場、プラスチック協同組合等が列挙されており、大変丁寧に取材されたようです。

高校卒業と同時に平野勇気が放り込まれたのは三重県の山奥にある神去村。林業に従事し、自然を相手に生きてきた人々に出会う。



林業っておもしろ〜!

本屋大賞にもノミネートされ、また、新聞等にも書評が載るなど、面白く、読みやすい作品ですので、ぜひ読んでみて下さい。

(荒畑 保)

(掲載絵：本の帯より)

研究紹介（平成22年度研究課題）

【森林環境部】

【継続課題】 8課題

- マツノサイセンチュウ抵抗性マツの育種と効率的な増殖に関する研究（担当研究員 小澤 創）
- スギ雄性不稔個体の育種と早期育成法の開発（担当研究員 壽田 智久）
- ナラ類集団枯損跡地の植生推移の基礎調査（担当研究員 蛭田 利秀）
- カツラマルカイガラムシの生態と防除技術の確立（担当研究員 在原 登志男、蛭田 利秀）
- 森林構成と土砂流出防止効果（担当研究員 渡邊 次郎）
- 伐採適齢人工林の混交林化（担当研究員 今井 辰雄）
- 列状間伐施業方法の検討（担当研究員 今井 辰雄）
- 広葉樹増殖技術の開発（担当研究員 渡邊 次郎）

【研究課題】 2課題

森林総合研究所交付金プロジェクト

- 天然広葉樹林の大量被害をもたらす昆虫の拡大予測と早期防除法の開発
(担当研究員 蛭田 利秀)
- 実用化技術開発事業（研究領域設定型）
- ナラ類集団枯損の予測手法と環境低負荷型防除システムの開発（ナラ類集団枯損予測手法の開発）
(担当研究員 壽田 智久)

【林産資源部】

【新規課題】 3課題

- 会津産スギ材の特性把握と利用技術の開発（担当研究員 村上 香、渡部 秀行）
- 会津・南会津地方では、カミキリムシ等の穿孔性害虫によるスギ材の変色・腐朽（通称：トビグサレ）の出現頻度が高く、会津産材の材価を著しく下げる原因の一つになっています。こうした市場での低い評価から森林所有者等の森林整備への意欲が衰退傾向にあるため、これら低評価材の有効な利用技術の開発が望まれています。
- そこで、木材需要の大部分を占める住宅分野の主要ユーザーである工務店等での利用を視野に入れ、下記内容により利用選別基準と利活用技術を開発し、会津産スギ材の利用推進を図ることとしています。

- 1 選別基準の作成
 - (1) 施業履歴の違いによる被害状況調査
 - (2) 目視等による被害判定と製材品の関係把握
- 2 材の有効利用技術の開発
 - (1) 木取りパターン別歩止まりの検討
 - (2) 被害状況別材質強度性能評価
 - (3) 被害材利活用技術の開発



会津産スギ材（県森連会津共販所にて）

○キリ健全苗生産技術の開発（担当研究員 長谷川 孝則）

現在植栽されている苗木の中には、根系が鳥足状で細根の発達していないものや掘取りの際の幹が傷付けられたものなど健全でないものが含まれており、生産現場からは健全苗の供給が望まれています。健全苗の供給は、優良な資源造成のために必要不可欠です。現在生産・供給されている苗木の殆どは、分根法（親木の根を切り取り、これから発芽・発根させて苗を生産する）により生産されたものです。分根法は、親木の形質を完全に受け継ぐこと・実生法（後述）に比べ、苗が大きくなることなどが利点としてあげられますが、伏込方法を誤ると鳥足等不健全な根系状態になりやすいなどの問題点もあります。もうひとつの苗木生産方法である実生法は、①親木の形質を完全に受け継ぐことはできないが、活力のある新たな苗木を生産することができる ②良好な根系の発達が期待できるなどの利点があります。また、苗木生産用の圃場において苗木を生産するという現在の方法では、掘取り・運搬という作業を避けることができないため、これら作業により幹及び根系が受傷する可能性があります。キリの生育障害は複合的な原因によるものと思われませんが、苗木に関して言えば、①根系部の状態が健全でないこと ②樹体が健全でないことが現在の大きな問題

と考えられます。このため、①根系の状態が良い ②根系・樹幹の損傷がない ③樹体の活力がある ④栽培者個人でも対応できることを目的として、ポット苗生産方法及びポット苗の植栽地への直接定植方法について検討を行います。



鳥足状で細根が発達していない苗



掘取りの際に傷つけられた幹

○地域特産食用きのこの栽培技術の開発と優良品種選抜

（担当研究員 武井 利之、内海 享、長谷川 孝則）

一般に栽培されているきのことともに、直売所等で販売されるきのこについても、より地域性や季節性の強いものが求められています。さらに、加工品等についても安全で特色ある当地産の原材料の供給が求められています。そこで、中山間地域の振興に寄与するため、自然栽培用品種を選抜し、地域特産品となり得る食用きのこの栽培技術の開発を図るとともに、これまで開発した栽培施設を必要としない栽培技術を応用した栽培技術を開発します。

今後平成26年度にかけて5年間、①優良野生株の探索・採取、②栽培技術の開発、③優良品種の選抜・育種、を実施する予定です。



野外栽培で発生したホンシメジ



自然栽培用きのこの選抜試験

【継続課題】 4 課題

- 圧縮処理等を活用した県産材の性能向上技術の開発（担当研究員 渡部 秀行）
- スギ材の低コスト化乾燥方法の開発（担当研究員 小沼 研二）
- ウコギ科類の増殖手法の開発（担当研究員 武井 利之）
- ナツハゼ増殖技術の開発と優良品種選抜（担当研究員 長谷川 孝則）

【研究事業】 1 課題

ネットワーク事業

- キリの成長促進や病害虫抵抗性を発現する土壌微生物の解明（担当研究員 内海 享）

トピックス

木材加工棟・試験棟をご紹介します。



木材加工棟



木材試験棟



人工乾燥の状況

オープンラボラトリーとして施設を解放しており、各種の検査検定機器や木材加工機械が利用できます。また、依頼試験にも対応いたします。



強度試験機



熱ロールプレス



熱ロール加工したスギ材

センターからのお知らせ

定期異動について

平成22年4月1日付け

<転入>

主査 佐藤 善助（小野高等学校）
主任研究員 村上 香（県中農林事務所）

<転出>

県中農林事務所 坂内 久信（主査[事務部]）
森林林業総室 遠藤 啓二郎（主任研究員[林産資源部]）

平成22年3月31日付け

<退職>

主任農場管理員 山下 明良



福島県林業研究センター

〒963-0112 福島県郡山市安積町成田字西島坂1 番地
TEL024-945-2160 FAX 024-945-2147
http://wwwcms.pref.fukushima.jp/pcp_portal/contents?CONTENTS_ID=10796
E-mail forestry.rc@pref.fukushima.jp